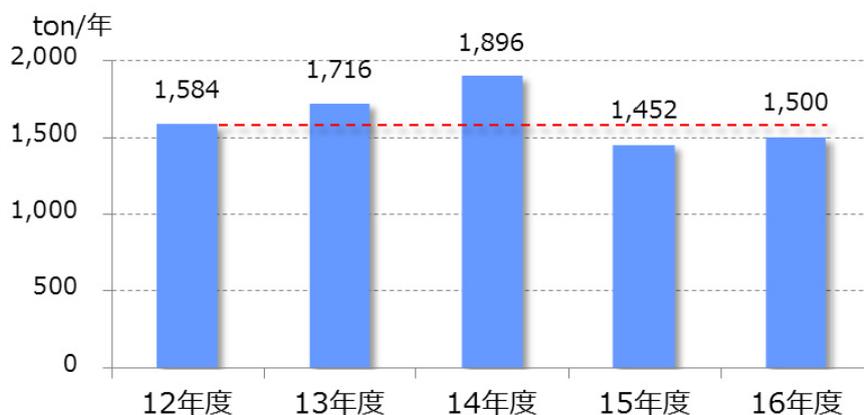


受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

<p>平成25年度 経済産業大臣賞 「事業所・地方公共団体等」分野 受賞</p>	受賞者名 住友電装株式会社
	所在地 三重県四日市市
	受賞テーマ 「アクションECO」～ 国内全拠点で取り組んだ3R推進活動 ～

1. 活動継続 あり

2012 年度以降も不要品分別による廃棄物削減活動を継続してきたが、世界的な原油安の影響などから、不要物(特に廃プラ材)の有価売却が鈍化し、一時的に廃棄物量は増加した。しかし、2015 年度に不要品分別や有価売却制度の見直しを行う事で、2016 年度には2012 年度の実績以下にまで廃棄物量を削減する事ができた。



尚、2014 年度から 2015 年度にかけて、444 ton/年の廃棄物量削減が実現したが、その主なる項目は下記の通り。

- シリコンゴム層の再有価化 (▲ 200 ton/年)
- 梱包用樹脂層の有価化 (▲ 24 ton/年)
- 電線被覆層の再有価化 (▲ 200 ton/年)

2. 活動の広がり あり

従来の社内 3 R センターに加え、特例子会社として SWS スマイル(株) を設立 (2013 年 5 月) し、障がい者とサポートスタッフによる製品層の分解業務を開始。

対応人員や施設の拡充によって、より多くの製品層を社内ですサイクル処理できるようになった。



3. 活動の進化 あり

【社内リユース活動】

各拠点に“エコクラブ”なる組織を設置して、各拠点で不要となった事務用品や機器の社内リユース制度を全国に拡大して、社内定期便を活用する事により遠隔地間での再利用も進めた。

2012年度：紹介件数 156 件、社内リユース 119 件 (76%)



2016年度：紹介件数 525 件、社内リユース 520 件 (99%)

リユース品の紹介件数も大幅に増加し、事務用品や機器については、ほぼ 100% 社内でリユースされるようになった。

4. 今後の計画

国内においては現行活動を継続・維持する。

さらに海外拠点においても廃棄物排出の実態を把握して、グローバルでの廃棄物削減活動を推進する。

(次頁に表彰概要掲載)

【表彰概要】

同社は1995年に環境理念を制定し、トップダウンで国内各拠点でのISO14001認証の取得やゼロエミッションを達成してきた。自動車部品メーカーとして、自動車用の電気配線（ワイヤーハーネス）の製造を行っているが、ハイブリッド車や電気自動車の普及によって、ワイヤーハーネスは構成部品が複雑化・肥大化しており、それに伴って産業廃棄物も増大傾向にあったため、ゼロエミッションを高いレベルで継続させるためにも、国内全拠点を対象とした3R活動を展開した。

【リサイクル活動】

2006年より社内に3Rセンターを設立し、製造過程で不要廃棄された製品屑を各拠点から集め、専任者が分解することで、産業廃棄物からリサイクル品への展開を図った。

また、製品屑を分解してリサイクルするだけでなく、製造過程で生じたロス屑などは、その場で原材料にリサイクルする装置などを取り入れて、全体的なリサイクル率を向上させた。

【リデュース活動】

リサイクル活動のみでは削減量に限界があるため、部品の包装材や樹脂トレーなどは徹底的な分別処理を開始した。数量を纏めるために一箇所に集約させる事で有価売却への転換を図り、廃棄物量の削減に繋げた。

【リユース活動】

不要となった事務機器や事務用品を社内の他部門に紹介して、再利用してもらう取り組みを2008年より開始した。各職場で担当者を決めて、事務機器の需要と供給情報を拠点単位で管理する事でタイムリーに再利用される仕組みを構築した。

【3R活動の具体事例（抜粋：電線被覆樹脂の社内リサイクル）】

